

福知山市大規模災害対応力強化検討会について

1 目 的

本市はこれまでから水害をはじめとする災害対応を経験してきたところであるが、令和6年1月に発生した能登半島地震を受け、大規模地震災害時の対応や備えについて一層強化を図る必要がある。

上記を踏まえ、過去の大規模災害における取組事例や知見、本市職員の被災地派遣によって得た経験を参考に、本市の地域防災計画及び業務継続計画の実行性向上等を目的にした具体的な指針の作成、また、大規模災害発生時の応援職員を受け入れる受援計画の作成や業務継続計画の改正、過去の大規模災害発生を踏まえた避難所の環境改善について、有識者、民間団体、自治会などから意見を聴取することを目的とする。

2 議論内容

(1) 福知山市大規模災害対応力強化指針の作成

福知山市地域防災計画における事項を円滑に運用するための細部の活動方針「福知山市大規模災害対応力強化指針」（以下、「指針」とする）を作成する。指針は「予防編」「発災直後・応急対応編」「復旧編」「復興編」に分類し、過去の震災でみられた課題を抽出し、課題に対する具体的な対策内容を示し、各委員からの意見を聴取したうえで作成を行う。なお、京都府において現在進行中の京都府戦略的地震防災対策指針の改正や公的備蓄の考え方、三峠断層等の被害想定の見直しの内容も考慮して作成する。

本指針策定後、資機材の整備等、目標達成に必要な取組を推進することで、大規模災害対応力の強化に努めるものとする。また、本指針は今後大規模な災害が発生した場合等、必要に応じて改正することとする。

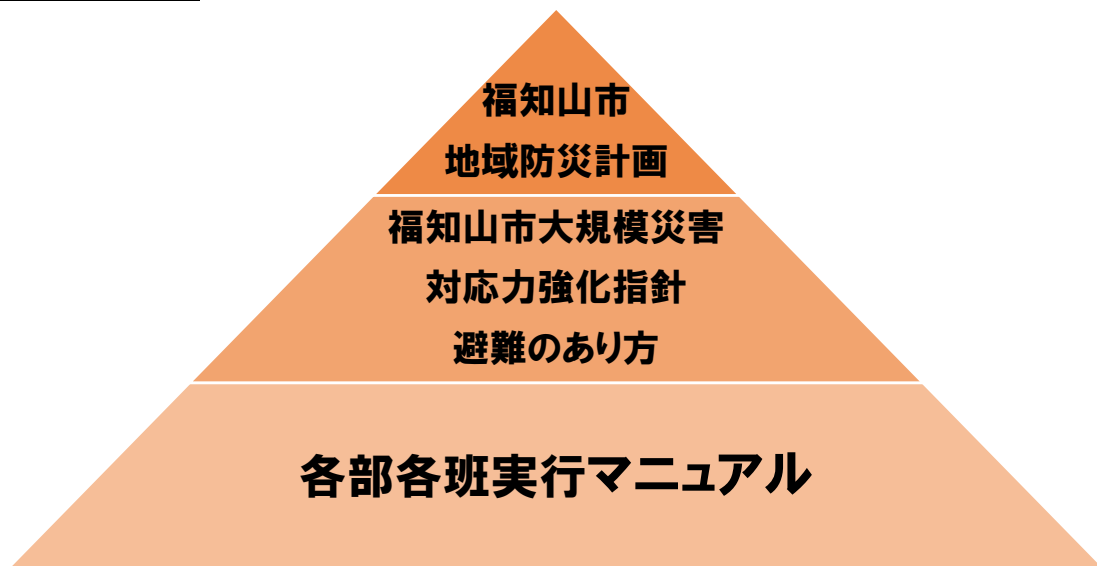
(2) 業務継続計画、受援計画の改正

現行の業務継続計画は、H29年度に策定されてから改正がされておらず、受援計画も暫定的な計画であることから、実効性を高めるよう改正し、骨子が完成した段階で意見を聴取する。

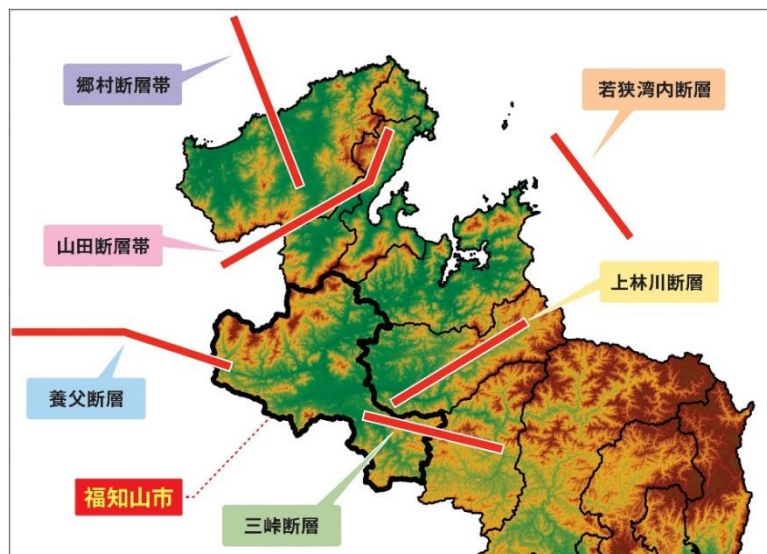
(3) 避難所の環境改善について

熊本地震や能登半島地震において長期の避難生活や避難所の環境を起因とする災害関連死の発生等を教訓に、本市における避難所の運営や環境整備、公的備蓄の品目等について意見を聴取する。

イメージ図



参考：福知山市に大きな影響がある断層位置図及び各断層における被害想定
 ※各断層における被害想定は、京都府において令和6年度中に見直しを実施



断層名	最大予測 震度	人的被害					建物被害		
		死傷者数 (人)	負傷者数 (人)	重傷者数 (人)	要援助者数 (人)	短期 避難者数 (人)	全壊 (棟)	半壊・ 一部半壊 (棟)	焼失建物 (棟)
三峠断層	7	720	4,490	860	3,790	44,320	21,350	15,160	4,500
上林川断層	7	430	3,110	510	2,130	33,140	13,450	14,770	2,670
山田断層帯	6強	20	570	20	200	8,830	1,990	6,550	—
養父断層	7	480	3,450	560	2,310	35,590	15,140	16,020	2,980
郷村断層帯	6強	130	1,740	220	360	13,330	2,720	7,770	330
若狭湾内断層	6弱	—	130	—	—	1,210	160	840	—
東南海・南海地震	5強	—	60	—	10	2,300	370	1,660	—
南海トラフ地震	5強	—	—	—	—	—	10	—	—

- 京都府地震被害想定調査結果(2008)：三峠断層、上林川断層、山田断層帯、養父断層、東南海・南海地震
- 日本海における最大クラスの地震・津波による地震被害想定(2017)：郷村断層帯、若狭湾内断層
- 内閣府のデータを基にした京都府被害想定(2014)：南海トラフ地震 ※被害が軽微な地域については「-」を記載。調査対象外については「/」を記載。